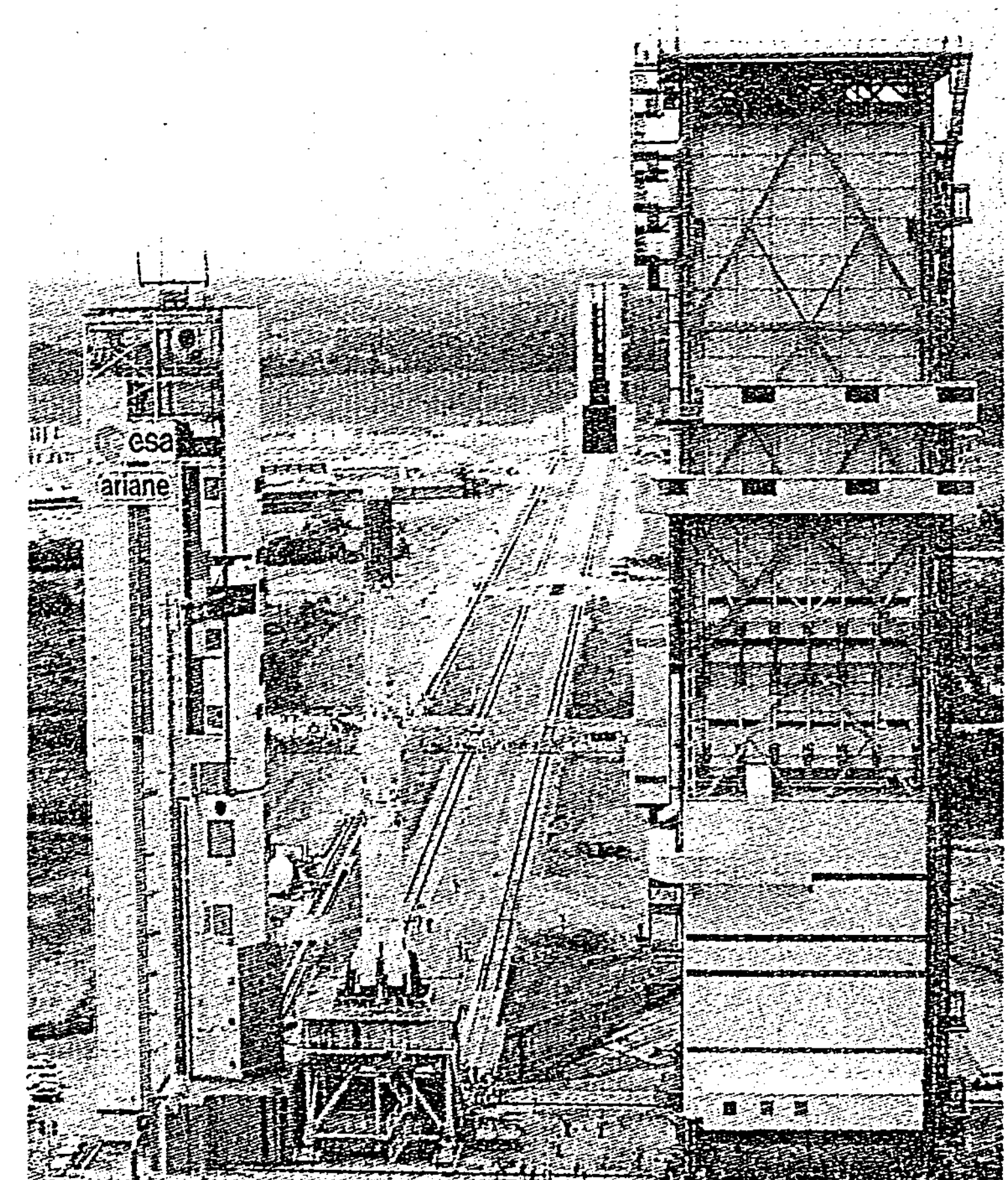


十勝毎日新聞

発行所
十勝毎日新聞社
〒080 帯広市東1条南8丁目
電話=編集②2121、広告
③2323、総務・販売④2222
©十勝毎日新聞社 1987

欧州の 宇宙開発

△厳しくチェック▽
パリ都心部、セーヌ川左岸のフォーラム・テ・アール地区。六〇年代当初まであった朝市が移転、跡地再開発で近代的地域に生まれ変わったこの地区の中心にフランス国立宇宙センター(CNES)の本拠地があった。欧州の宇宙開発を名実ともにリードするフランス、その責任と運営の一切を掌握するのがこの機関だ。



ヘルメスの打ち上げ基地となるギアナ宇宙センター

南米のギアナから打ち上げ

△帰着はフランス▽
また、視察団が最も関心を持っていた発着場については「発射には現在ある南米ギアナ(仏領)のギアナ宇宙センターをそのまま使うが、着陸にはフランス南部のイストル

CNES 内の宇宙政策 億フラン(二十五億円)を立案、実行するため一九六一年設立された国家機関。度未現在で、このうち五百人がフランス南部のツールに研究センターに配置されている。



ヘルメス計画とは別に、この日、視察団に大きく問題提起したのは宇宙開発における日本とフランスの組織形態の違いだ。「日本は各官庁予算運営を分割しているが、フランスではすべての研究をCNESが一貫して行っている。しかもCNESは、国立機関とはいえ、商業ベースの企業を支援し得るなど民間並みの運営が認められている」とジェラルド氏。

ヘルメス

97年に無人の1号機

「これまで神経質とは」と一時間程度のレクチャーだが、ここにはフランスが提案している宇宙往還機「HOP」SAの共同プロジェクトとして「E」に相当するもので、スペースシャトル「ヘルメス」の正式承認された欧州版スペースシャトル「ヘルメス」の新たな宇宙センター誘致を目的とした。一九九七年、ESAの次期主力ロケット「アリアン5型」(九五年に第一回打ち上げ)に搭載し無人飛行を開始、翌

視察団が到着して、最初に求められたのがパスポートの提示。忘れられしよものなラ、たとえ遠来の客でも入館

「HOP」に相当▽
対応してくれたのは、国際渉外担当事業部長で特に日本が担当というジェラルド・ブロンド氏。会議室でおおよそ二

良型ロケットで初飛行を目指す。在考えられているヘルメスは、数で説明「米圏やソ連の宇宙

①単独利用 ②各種科学観測、ステーション(ミール)にもアクセス出来るよう交渉中

星の修理の宇宙基地本体へのという。物質や人員の補給が三ヶ月、一九九七年、ESAの次期主力ロケット「アリアン5型」(九五年に第一回打ち上げ)に搭載し無人飛行を開始、翌

「帰着はフランス」
また、視察団が最も関心を持っていた発着場については「発射には現在ある南米ギアナ(仏領)のギアナ宇宙センターをそのまま使うが、着陸にはフランス南部のイストル

「帰着はフランス」
また、視察団が最も関心を持っていた発着場については「発射には現在ある南米ギアナ(仏領)のギアナ宇宙センターをそのまま使うが、着陸にはフランス南部のイストル

「帰着はフランス」
また、視察団が最も関心を持っていた発着場については「発射には現在ある南米ギアナ(仏領)のギアナ宇宙センターをそのまま使うが、着陸にはフランス南部のイストル

「帰着はフランス」
また、視察団が最も関心を持っていた発着場については「発射には現在ある南米ギアナ(仏領)のギアナ宇宙センターをそのまま使うが、着陸にはフランス南部のイストル

年間キャンペーン「目指せ宇宙基地」第6部

(金谷 信記者)